

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成25年12月19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会長 辻井 昭雄 様

所属部局・研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科

職名・学年 博士課程4年

氏名 彭 宇 潔

助成の種類	平成25年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成	
研究集会名	アフリカ研究学会第56回年次大会	
発表題目	Continuity and Diffusion of Body Modification Among the Baka Hunter-Gathere	
開催場所	アメリカ、メリーランド州、ボルチモア、アフリカ研究学会	
渡航期間	平成25年11月20日 ～ 平成25年11月26日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	20万円
	使用した助成金額	20万円
	返納すべき助成金額	円
	助成金の使途内訳	航空券代:13万円
		海外旅行傷害保険:7,000円
ホテル宿泊代(5泊):6万円		
ビザ申請費用:17,600円 (オーバー部分は自費負担)		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果の概要

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

アフリカ地域研究専攻

博士課程4年生 彭宇潔

学会の概要

アフリカ研究者たちはアフリカの地理的多様性に注目し、各分野でその人、物、資本、アイデアなどに関する動きを調べている。アメリカのアフリカ研究学会年次大会は南半球の人々または南と北の間の人々の動きだけではなく、国境紛争・環境変動・外的勢力を監視するために設置された組織なども含まれている。山・砂漠・湖・海など地域間の移動に利用される鉄道、飛行機、車などの交通道具について調査している。また、境界線を横断するアフリカ人たちの宗教、民族性、ジェンダー、言語、性的問題などについて論議を行う。このソーシャルメディアとテクノロジーの時代では、アフリカ又はアフリカの他国の間でアイデア・シンボル・もののコモディティ化の影響に関する調査も行っている。当学会は、このような動きによって人間関係の構築・維持・再構成に強く関心を寄せている。

アフリカ研究学会年度大会は世界中のアフリカ研究者の最大なる集会である。約2000人の学者と専門家が出席される本大会は200以上のパネル、ラウンテーブル、学術会議、専門会議、イベント、学会賞だけではなく、ディスカッショングループ、国際展覽ホール、また、アフリカ研究者たちへ感謝を表す映画の上映も提供される。この年度大会は北アメリカの有名な大学と博物館により主催され、アメリカ大陸、アフリカ、アジア、ヨーロッパから参加者による発表が行われる。

<発表タイトル>

Continuity and Diffusion of Body Modification among the Baka Hunter-Gatherers

(狩猟採集民バカにおける身体加工の伝承と伝播)

発表の概要

カメルーン共和国東南部のバカは、中部アフリカ熱帯雨林地域で暮らしているピグミー系ピグミー系狩猟採集民の一つである。彼らは治療や祈願のために体に治療痕を残す一方、前歯加工、刺青、火傷瘢痕、ピアシングのようなおしゃれのための身体加工も見られる。バカの面部、上腕部、胸部、腹部、腰部と脚部に観察された刺青はバカの中で最もデザインの多様性に富む身体加工である。

バカの刺青には昔からある「伝統的刺青」とアメリカンタトゥーに似ている「現

代的タトゥー」の二種類がある。「伝統的刺青」は短い線と小さい方形で構成されるが、「現代的タトゥー」はアルファベット（ほとんどは本人の名前）、葉、サソリ、ヘビなどが若いバカの中で人気がある。

本発表では私が2010年から2013年にかけて計52週間で、カメルーン共和国東部州で暮らす1100人余りのバカを対象として現地調査を行った結果について報告した。刺青のデザインに対してジェンダー・世代・氏族・地域・民族・個人などという異なる角度からデータを分析する。また、それに関する技術の学習と伝承について議論を行った。

今回の第56回アフリカ研究年次大会のテーマ「Mobility, Migration and Flows」に合わせて、私はバカの身体装飾の伝達を彼らの移動に注目して議論を行った。ピグミー系狩猟採集民のライフスタイルに移動的生活という特徴があるが、1950年代カメルーン政府が定めた道路沿いの定住生活政策により、バカたちは近隣のバンツー系農耕民と同じに、定住集落を作り、昔森の中で移動しながらキャンプを廃棄したり作り出したりする純粋な移動性の高い生活と大きく変わったが、毎年定期的な森生活と集落間の移動がそれほど変わっていない。私はこれまでの広域と定点で行った聞き取り調査により、バカたちの移動にはジェンダーの差が見られることを明らかにした。身体装飾文化において主導的な女性達は、よく知っている集落、地域間で頻繁に移動し、その移動によって、身体装飾の技能やデザインなどを地域間で伝わったのである。女性たちの移動は限った範囲の中だけであるが、施術者と施術を受けた人々が各自の範囲内で移動によって、それにそれぞれの移動範囲が重なっていて、身体装飾の地域差をこのような移動によって無くされたと考えられる。一方、男性たちの移動は女性よりもっと探検的で、特に思春期に入った男子は知らないところまでの移動がよく見られる。さらに、男子の方は新しい技能や装飾に関心が高く、チャレンジ精神も高いということが明らかである。従って、バカの男性はたとえ身体装飾の主導者でなくても、身体装飾文化を更新して行く先駆者と言っていいのである。

謝辞：

今回京都大学教育研究振興財団の助成でアメリカないし世界で最大規模と言われるアフリカ研究年次大会に参加できて、お礼を申し上げたいと思う。採択していただき、今回の学会で自分の研究成果を海外に発信できただけでなく、世界中の優秀なアフリカ研究者と若手研究者と出会い、有意義な交流と勉強になり、ありがたく思う。